

落語の魅力知って

地元放送作家・海老原さん

自著を市長に贈呈



朝長市長（右）に著書を贈った海老原さん
＝佐世保市役所

佐世保市内の小中学生でつくる「佐世保かつちえて落語会」を企画・運営する放送作家の海老原靖芳さん

（61）同市石坂町Ⅱがこのほど、市役所に朝長則男市長を訪ね、8月に出版した著書「佐世保に始まった奇蹟の落語会」を贈った。

海老原さんは東京でドリフターズやたけし軍団、とんねるずのコント台本を書くなど活躍し2012年、約40年ぶりに帰郷。04年の小6女兒同級生殺害事件を受け「故郷の子どものために何かできないか」と考え、同落語会を4年前から毎年2回開いている。

著書では落語会立ち上げの奮闘や子どもたちの触れ合い、書き下ろし新作落語などを紹介。B6判286ページ、税別1700円。

海老原さんが「小さな子が大勢の客を前に正座して、上半身のしぐさや声だけで笑わせる。終えた後には表情が全然違う」と述べると、朝長市長は「その経験は自信につながる」と応じた。

9回目となる落語会は11月30日に市コミュニティセンターで開かれる。小中高生千円、大人2千円など。同落語会実行委（電0956・32・080000）。

（板倉聖教）